

## 13) 参加者の装備

- ①ドライバークの服装は、長袖・長ズボンを着用しなければならない。また運転中以外でも、作業時には必ず着用しなければならない。（耐火性のドライビングスーツやグローブ、シューズを着用することを強く推奨する）
- ②ヘルメットはフルフェイスタイプもしくはジェットタイプ。

## 14) 走行内容

- ・各レースクラス
    - 【スーパーバトル（SB）スプリント、スーパーストリート（SS）スプリント、NA660選手権、コメントロフィー、S660トロフィー】
    - フリー走行（20分）、予選（15分）、決勝レース（10周）
    - ※NA660クラスのみ、悪天候の場合クラス毎の集団によるクラス隊列式のローリングあるいはスタンディングスタートを行います。
  - ・タイムトライアルクラス
    - 20分×2本のタイムトライアル
- 15) スタート方法  
予選結果にもとづくグリッドスタートするが、やむを得ず変更となる場合が御座います。
- 16) ピット使用に関して、ならびにその他お願い
- ・各チーム指定の割り当てられたパドックに車輛を停めてください。
  - ・PITは競技中のみ使用可能です。使用できるPITは大会当日発表します
  - ・PIT数に限りがある為、1PITにつき複数チーム入ります。譲り合ってください。
  - ・PIT及びプラットフォーム内での禁止事項は遵守してください。（傘の使用や、飲食等は出来ません）  
注意：必要な物（車両・消火器・バケツ・ガソリン用携行缶・服装類）  
上記を忘れた場合、参加出来ません。
  - ・パドック内にてBBQなど火気を使用する場合は、スポンサーブースエリアをご利用下さい。（利用料等については、事務局へ問い合わせください）

## 17) 賞典

- 各クラスの決勝出走台数により賞典対象を下記の通り決める。  
◇出走台数：2台～3台／1位のみ表彰、4台以上／3位まで表彰

## 18) キャンセルに関して

- 申込み後のキャンセル受付、入金後のご返金は一切致しません。また、次回繰越対応も致しかねますので、ご了承ください。
- 19) レイトエントリーに関して  
受付申込期間を経過してからエントリーは、受付する事が出来ません。但し、募集枠に空き枠があるクラスに限り、追加期間を設ける場合が御座います。その場合は、エントリー代金にプラス¥3,000が加算されます。※通常申込期間内での受付をさせていても申込代金の御支払が遅れる場合も、上記のレイトエントリーとしてみなす場合が御座いますので、ご注意ください

## 19) 安全遵守事項

- ・必ずドライバースブリーフィングに本人が参加する事。（参加されない場合は、参加をお断り致します）
- ・走行に適した健康状態で参加し、走行中は常にお互いの安全を考慮した協同的マナーのもとに、自己の技量とコース状態に適した速度で走行すること。また、危険とみなされる行為を行ってはならない。
- ・場内施設を破損した場合は、復旧に要した費用を実費お支払いいただきます。タイヤバリア等も含んでおります事あらかじめご了承ください。
- ・ピット内での喫煙は禁止です。必ず所定の場所で行ってください。
- ・トラブルや時間の関係上スケジュールが変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。また、開催は雨天決行となります。※当日の雨量により周回数を減算する場合がございますがご了承ください。

## 20) 再車検（NA660宛）

- ※車高、触媒、マフラー音量、排気ガス検査について  
各主催者の判断により、上位ゴール車両については再車検を行う場合があります。その際は、マフラー音量、排気ガスを特にチェックしますので注意して下さい。
  - ・車高：サーキット内に限り、9cm以下でも良い。
  - ・触媒：全クラス触媒の装着を義務付けます。  
0クラス=位置変更材質変更可  
①④クラス=車検対応品に限り交換可  
②③クラス=純正品に限る
  - ・マフラー音量：全クラスサーキット内は99dB以下とします。
- ※ただし、サーキットの音量規制が優先されます。
- ・排気ガス：COやHCの数値は、通常の一般車検の既定値以下とします。
- ※車検員は、上位3人のドライバー&チーム立会にて、自車両以外のほか2台をチェック。そこに事務局が指定したチームの代表やスタッフにもお手伝いを頂く場合があります。

## NA660選手権・車両規定

下記規則については、2017年の「東北660選手権大会規則書」ならびに「東北660選手権車両規則書」に準じますが、一部ローカルルールも適合します。東北660選手権への遠征を考えている場合には、十分に規則を熟知して車両製作をおこなってください。

### ■ 目的

同日開催の他レースとの進行プログラムを配慮し、規則を一部簡素化すること等を目的とします。

### ■ 概要

- 1、ナンバークラスに限定  
維持費の安いKカーのメリットを、最大限に活用。レースや練習のたび積載車を借りるよりも、結果的にコストを抑えられることを考えております。車検を取得していない車両の場合は、以下の車両規則に従い、公道を走行出来る状態と同等な仕様でなければならない。
- 2、車種ごとの改造範囲の特例  
車種ごとに走行性能が大きく異なる場合は、車種ごとにファイナルギアの変更を特例で認めるなど、シーズン途中であっても導入する場合があります。

### ■ エンジン系

#### 1-1：エンジン本体

純正部品の旋盤加工／溶接／研磨など機械加工は禁止。ピストンは純正スタンダードサイズに限り使用でき、排気量アップは認めない。カムシャフトなど部品の変更も同様で、同一エンジン型式の純正部品に限って使用を認める。またエンジンを載せ替える場合は、車検証上で同一型式（構造変更が必要ない場合）であれば気筒数や年式に関係なく認められる。フローバイガス還元装置のホースを吸気系から取り外す場合は、排気量と同等以上の容量があるキャッチタンクを必ず取り付け、**大気開放は禁止とする。**

#### 1-2：フライホイール

- ①④クラス：加工や変更を認める。
- ②③クラス：加工や変更を禁止する。

#### 1-3：エンジンマウント

エンジンマウントは市販品に限り変更を認める。ただしエンジンマウント位置の変更、エンジンマウント本体の加工は認められない。樹脂などを注入する程度の補強は認められる。

#### 1-4：ラジエーター関連

ラジエーター、サーモスタット、ラジエーターキャップ、ラジエーターホースの変更は認められる。水温計センサーを取り付けるための、ラジエーターホースへの加工も認める。ラジエーターファンを強制的に作動させる、ON/OFFスイッチの装着もクラスを問わず可能。

#### 1-5：オイルクーラー関連

オイルクーラーの装着は認められるが、フィルターを移動する場合は安全な位置でなければならない。油温計や油圧計のセンサーを取り付ける加工、オイルパンの容量アップやパッフル加工も安全であれば認められる。

#### 1-6：バッテリー

バッテリー位置の変更は認められるが、重量に耐えうる台またはホルダーを使い、確実に固定すること。室内に移動する場合は、ドライバッテリーを除き金属板で隔壁しなければならない。容量および取り付けブラケットの変更も可能だが、ボディにアースされていない側の端子（+）は短絡を避けるため、確実な方法で絶縁すること。

#### 1-7：ECU

- ①④クラス：フルコンを含めて変更が認められる。
- ②クラス：燃調コントローラとスピードリミッターを解除するための簡易的な製品のみ装着を認める。点火時期やレプリミットなど燃調以外を変更できる製品や、コンピューターに接続しデータを書き換える製品は認めない。
- ③クラス：スピードリミッターカットを解除するための製品のみ使用できる。  
※電子スロット車両のスロットルコントローラはクラスを問わず使用できる。

#### ※ECUの封印について

規則を一部簡素化すること等を目的とし、ECUの封印は行いません。

#### 1-8：点火系

- ①②④クラス：ハイテンションコードやプラグの変更、アーシングなど点火系パーツの装着を認める。同時点火への変更も可能。
- ③クラス：プラグやプラグコードを除き一切の変更は認められない。

#### 1-9：燃料系

燃料タンクの加工、コレクタータンクの装着、安全タンクへの変更はすべて認められない。インjekター容量や燃料ポンプ吐出量の変更も不可とする。燃料は通常のガソリンスタンドで購入できる製品に限り、レースガスなどの使用は認めない。ガソリン添加剤は、市販品に限り使用できる。

#### 1-10：吸気系

エアクリナーボックスやバイピングの変更が認められる。エアクリナー本体は剥き出し、純正交換のどちらでも構わない。耐熱パンテージや導風板の装着も認められる。

#### 1-11：スロットルボディ

- 0①④クラス：スロットルボディの加工や変更を認める。
- ②③クラス：スロットルボディの加工や流用を含む変更を認めない。

#### 1-12：排気系

全クラスマフラーの音量を96dB以下とする。通常の一般車検は96dBが合格ラインだが、サーキット内に限り99dBまで可能とする。ただし96dBを超える場合、一般道の走行時はインナーサイレンサーで車検に通る音量まで抑えること。再車検にて確認を行う。排ガスについても、レース後の再車検で排ガステスターにて確認を行う。合格ラインは一般車検の値を基準とする。

0クラス：触媒の搭載位置も含めて変更可能。ただし、マフラー音量、排気ガスは上記の基準をクリアすること。

- ①クラス：車検適合品であれば、メタルキャタライザー（スポーツ触媒への変更は可能）
- ④クラス：排ガスや音量など、保安基準に適合する範囲内であれば、マフラー／エキマニ／キャタライザーを自由に変更できる。ただし触媒は必ず装着すること。マフラーの出口は後方のみとし、サイド出しは左右を問わず禁止とする。
- ②③クラス：排ガスや音量など、保安基準に適合する範囲内であれば、マフラー（フロントパイプ／センターマフラー／リヤマフラー）に限って変更が認められる。触媒およびエキマニは純正を使用し、位置の変更や加工はすべて禁止。マフラーの出口は後方のみとする。

#### 1-13：過給器の取り外し

過給器が付いた車両から過給器を外した、または同型式の自然吸気エンジンに載せ替えた車両での参加を認める。

### ■ 足まわりとブレーキ

#### 2-1：ブッシュ類

強化品への変更が認められる。ピロボールも使用できる。

#### 2-2：スプリング

自由長やレートの変更は自由だが、サーキットまでの往復を含む行動走行時は9cm以上の最低地上高が確保されており、縦方向に遊びがない状態で行なければならない。  
※レース中は最低地上高が9cm以上である必要はない。

#### 2-3：ダンパー

倒立式や別タンク式を含めて、変更が認められる。材質は自由で、減衰力を室内から調整するコントローラーも使用できる。

#### 2-4：サスペンションアームなどパーツの変更について

車検対応品であり、市販化されているパーツであれば（ワンオフパーツは不可）変更を認めます。  
上位車両の再車検時に、車検対応ならびに市販パーツであることを証明できるカタログ、ウェブサイト画面のコピーなどの提示を求められる場合があります。サスペンションパーツに限らず、交換部品については（0クラスを除いて）同様とします。

#### 2-5：制動装置

ポルトオンで装着可能なブレーキパッド／ローター／ホース／キャリアー／マスターシリンダーなどの装着が許される。またバックプレートの取り外しは認められ、マスターバックの取り外しは認められない。  
※ドラムブレーキからディスクブレーキへ変更する際は、必ず公認車検を取得し書類を持参すること。

### ■ 駆動系

#### 3-1：クラッチ

ディスク、カバー、ホースの変更が認められる。

#### 3-2：トランスミッション

- 0①④クラス：ファイナルギヤを含め、変更が認められる。
- ②③クラス：ファイナルギヤを含め、変更が認められない。

#### 3-3：ディファレンシャル

- 0①④クラス：機械式LSDの使用が認められる。
- ②③クラス：機械式LSDの使用は認められない。